

10月1日付けで着任いたしました

東陽病院副院長「伊藤 文憲」医師



副院長（内科）
伊藤 文憲
昭和22年10月7日生

伊藤先生は、千葉大学医学部を卒業後、厚生連上都賀病院・千葉大学医学部・社会保険船橋中央病院に勤務され、特に船橋中央病院では内科主任部長として活躍された方です。

なお、内科医師「崔」先生は、市川市で開業のため9月30日付けで退職されました。

自己紹介

出身は旭市です。祖母の実家が野栄町にあり、子供の頃に自転車で栗山川まで来た思い出があります。学生時代は総武本線を千葉まで2年間通学しました。卒業後第一内科に入局し消化器病学を専攻しました。大学及び鹿沼市の病院を経て、社会保険船橋中央病院に20年余勤務し多くの患者さんを診察し、特に腹部超音波・胃内視鏡・直接胆道造影などにより診断と治療を行いました。入院の多くは胆石症や肝臓癌・膵臓癌などの悪性腫瘍でした。最近が高齢化による寝たきり状態の増加により在宅診療を希望する患者さんが増え、毎月十数軒の往診もしました。当地は船橋市に比較して高齢化が進んでいますが、緑が多く空気がさわやかで環境に恵まれた羨ましい土地です。今後は病院のスタッフ及び医師会や行政の方々と協力し、皆様が健康で元気な生活を過ごせるよう、地域医療のため頑張りたいと思いますのでよろしく願います。

健康ウォッチング

東陽病院内科医師

鈴木健士

健康ということ

横芝町のみなさん今日は。今回は少し抽象的ですが健康ということについてお話ししたいと思います。

私が医師として健康に携わるようになって13年と少しになります。この仕事に就く前は幸い大きな病気をすること

もなかったせいか、特に健康ということを考えることはあまりありませんでした。健康

な時に忘れていたのが健康なことこの有り難さと言えるので

しょう。しかし医師となり病気に苦しむ患者さんと接する

ようになり、否応なく健康についていろいろと考えさせられるようになりました。

人の命とは風の前の口ウソクの炎のように儂く思えることがあります。外来でお会い

して元気に帰られた翌日思いもしない計報を知らされるこ

ともあります。逆に私の想像をはるかに越える力強い生命

力を感じさせられることもあります。治療の手も尽きてご

家族に厳しい状況を伝えた翌日に信じられないような回復

を目の当たりにしたこともありました。私の勉強と経験が

足りないためにこんなにも驚いてしまうのかもしれない

が、正に生命とはワンダーゾーンだと思っています。

その不思議な生命の上にある健康とは実に際どいバランスの上にあるように思われま

す。健康な人の身体は一見穏やかな状態に見えますが、そ

の中では実にダイナミックな営みがあるのです。例えば心

臓は1分間に約5ℓの血液を送り出すポンプです。一日に

すると700ℓと8ℓ弱もの量をあの小型ポンプが休むことな

く80年間働くのです。その極めて高性能な心臓も栄養を送

る血管がたった1カ所つまっただけでも心筋梗塞を起し、

最悪の場合あつという間に止まってしまふのです。人の消

化管の中には無数の細菌がいて通常は仲良く共存していま

す。しかしその細菌も身体別の場所に侵入すると突如牙

をむくこともあります。全ての臓器は健康な状態を維持す

るため休みなく働き、その機能が狂えば健康のバランスは

失われるのです。しかし神のお造りになった

人体は実にうまく出来ていて幾重にも制御機構を設けて巧

みに定常状態をコントロールしているのです。

本当に健康とはかけがえないものです。みなさんも是非この貴重な健康を維持する

ため体をいたわり、体に優しい生活習慣を身につけて頂きたいと思ひます。

私事ですが東陽病院を来年3月で退職することとなり、

このページでお話するのは今回が最後になります。お世話

になりました。今後は別の形でこの地域の医療に貢献したいと考えておりますのでよろ

しくお願いいたします。

次回からこのページは副院長として着任されました伊藤

先生にバトンをお渡しします。長い間お付き合い有り難うござ

いました。